



テーマ1 文化醸成

テーマ小分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標
事業者 各種事業者によるインパクトサイクル(*1)にもとづく事業運営の実施	<b>社会的インパクト評価事業者ネットワークの形成</b> ① 評価実践(社会的インパクト評価含め)のメリットを、活動分野、地域ごとに戦略性をもって普及する ② 事業者にとっての社会的インパクト志向のステップを定義する		③ 社会的インパクト評価にもとづく事業報告を普及させる		・社会的インパクト志向原則に賛同する事業者・資金提供者が、あらゆる地域・分野にて、全国で1000団体以上存在する(*3)。
資金提供者 財団、企業、金融機関、個人、行政	<b>社会的インパクト評価資金提供者ネットワークの形成</b> ④ 資金提供者自身の社会的インパクト志向のステップを定義する ⑤ 資金タイプ(寄付、助成、投資、融資)ごとの社会的インパクト評価に対する考え方を整理し、関係者を巻き込む		⑥ 社会的インパクト評価にもとづく事業報告を普及させる ⑦ 社会的インパクト評価にもとづく助成金・交付金申請書を普及させる		
社会的認知 NPO等社会事業者(評価実施主体) 企業・伴走者・中間支援団体 政府・市民	<b>社会的インパクト評価の情報発信強化</b> ⑧ イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出 ⑨ マスメディア(新聞・TV・雑誌等)やソーシャルメディアを通じた社会的インパクト評価の促進 ⑩ 発信すべき情報を確定・共有するために、他のWGとの連携の仕組みを創る。 ⑪ 行政が策定する方針等において「社会的インパクト評価の推進」等を盛り込む		⑫ 社会的インパクト評価について、学校のボランティアプログラムなどを通じて、子供のときから触れる機会の創出 ⑬ 事例の公開、評価大賞やベストプラクティス表彰の発信(詳細はテーマ3「事例の蓄積・活用」参照)		
*1「インパクトサイクル」:計画-実行-測定-レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなどの便益が生み出される事業運営。 *2「社会的インパクト志向原則」:社会的インパクト志向で事業や活動を実施するための基本方針 *3:原則への賛同表明団体数により目標を達成したかを計る *4:例えば、認知度調査等において社会的インパクト評価の認知について尋ねる項目を設けることにより、認知度の程度を計ることができる。					

テーマ2 インフラ整備

テーマ小分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標
評価人材の育成 - 事業者(経営者・管理者・現場) - 資金提供者 - 中間支援組織(伴走者) - 評価専門家	① 要件整理 以下の事項を整理 - 育成したい人材像(必要な知識・スキル) - 社会的インパクト評価に関連する既存研修	② 研修提案 - カリキュラム - 教材開発 ↑ 教材開発のインプット	③ 基礎研修 社会的インパクトマネジメントの理解・実践に有用な基礎的な知識、スキルに関する研修(実施機関との情報交換・連携) ④ 実践研修 社会的インパクトマネジメントを実践する上で必要な応用的な知識・スキルに関する研修等(実施機関との情報交換・連携)	⑤ 専門講座(大学等)実施機関との情報交換・連携	・全国で1,000名が基礎研修を修了し、100名が実践研修を修了している。 ・社会的インパクト評価に係る専門講座が開講されている。
評価手法の確立 ガイドライン ※原理原則 具体的手引き ※内部評価時に参照できるレベル アウトカム・指標	⑥ 要件整理 - 目的/評価の利用者 - 分野 - 規模 - 時間軸 ⑦ ガイドライン、具体的手引きの開発	⑧ 実践を通じた検証・改訂 ※評価事例蓄積との連携		⑨ 専門講座(大学等)実施機関との情報交換・連携	・インパクト志向原則に同意した団体のうち80%でガイドライン・手引きが活用され、事業管理が改善している。 ・NPO法の20分野(例)で共通的な指標が整理、活用されている。
資金面 評価支援体制の整備 資金提供者による評価コスト支援	⑩ 要件整理 - 評価に係るコストの整理 - 支援範囲の整理 - 支援方法の検討 ※基金は官民のマッチングファンドを想定	⑪ 資金提供者による評価実施費用の助成対象費用への繰入/団体内での自己評価体制構築への助成の実施 ⑫ 詳細制度設計 ※事業者と評価支援者のマッチングの仕組み含む	⑬ 基金運用		・インパクト志向原則に同意した資金提供者のうち90%で評価コストの支援がある。 ・評価支援基金が設立され支援が行われている。
技術面 リソースセンター(Webサイト)の整備 支援体制の整備 ※実践者が支援者になる仕組みづくり	⑭ コンテンツの継続的更新(事例、評価支援組織・人材、評価ツール、オープンデータソース) (詳細はテーマ3「事例の蓄積・活用」参照) ⑮ 運営体制確立 ⑯ 評価実践者のピア・ネットワーク構築	⑰ 支援者情報		⑱ リソースセンター(ウェブページ)更新およびデータベースの構築・運用	・リソースセンターに1,000件の評価事例がアップロードされている。 ・ピアネットワークに1,000名が参加し、累積で5,000件のレビューが行われている。

テーマ3 事例の蓄積・活用

テーマ小分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標
事例の蓄積・活用	① 事例の現状把握 - 事例の発掘・収集 - 評価実施団体の洗い出し - 地域別件数の把握と目標検討 ② 事例収集・公開の要件整理 - 収集・公開する事例の定義 - 分類タグの整理 - 推奨する構成の整理(指標選定理由、アンケート、評価プロセスの学び等)	③ 事例の公開 - 公開へのインセンティブ設計 - 公開レベル別の情報開示 - リソースセンター(ウェブページ)の機能強化(メタ評価、口コミ、Q&A、参照数、推奨等) ④ 評価実施の促進 - 評価大賞やベストプラクティスの表彰等 - 評価結果を踏まえた事業改善・新しい事業形成支援等 - 評価プロセスの学びの共有 - 事業改善等につなげた事例の調査・共有 - 海外事例の共有 - 公募事業等の選定基準や要件に追加		⑤ リソースセンター(ウェブページ)更新およびデータベースの構築・運用	・多様な(目的、手法、セクター、分野、地域等を含む)社会的インパクト評価事例があらゆる地域で1000事例蓄積され、活用されている。